

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUŜUA ESPERANTO-LIGO ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

La Movado

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUŜUA ESPERANTO-LIGO ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

Fondita en 1951 N-ro 874 decembro 2023

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ôsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO
2-190, Sisaido, Tarami-tyô, Isahaya-si, Nagasaki, 859-0407,
MORIWAKI Yasumasa

ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU
Sinhama-tyô 2-4-18, Marugame-si, Kagawa-ken, 763-0063,
KOSAKA Kiyoyuki

ENHAVO

第110回日本エスペラント大会参加記
コンパクトながら充実したプログラム木元 靖浩 1-2
児童文学からウクライナ情勢まで、多様な話題の大会
.....相川 節子 2
楽しい作文教室 (148).....塚本 猛 3
夢十夜 (12) 夏目 漱石 / 沖 恵明 4-5
楽譜：一番星みつけた Unua Stelo 5
対訳：源氏物語 第54帖 夢浮橋 (6).....紫式部/belmonto 6-7
Kajero Libervola:Kial homoj militas?
.....TAKEMORI Hirotoŝi 8
vidis eksciis sentis:Nova fama loko estas naskita en
la urbo NaraTAKEMORI Hirotoŝi 9
奈良西部公民館文化祭竹森 浩俊 10
La Movado: 各地のザメンホフ祭予定、
日韓共同大会予告、宮崎、姫路、京都ほか 10-11
kultura heredajo: 小倉百人一首 (遍昭) 11
Vortkruca enigmo / 作文教室成績 12
Mikspoto / 作文教室課題 / KLEG事務局だより13
Inekso de La Movado 2023..... 14-15
編集ノート16

— 第110回日本エスペラント大会参加記 —

コンパクトながら充実したプログラム

第110回日本エスペラント大会に参加した。10月21日(土)22日(日)に、川崎市で開催されたもの。従来3日間の開催であったが、今回2日間の開催になった。北川郁子大会会長の開会の挨拶にこうある。各地元のエスペラント会で、多大な労力を伴うと想定されて、大会を引き受ける会がない

木元 靖浩 (兵庫県)

ことが明らかになり、議論の結果、日本エスペラント協会 (JEI) と大会常置委員会は、大会組織部が主導する形で行うこと。コンパクトな2日間の、それでも補って余りある、ネットによる大会前行事、大会テーマ「(エスペラントが) いま夢見る世界は何か」の議論、そして「オンライン文化祭」としての、

各グループの動画の募集と発表を行うこととした。

分科会に「大会テーマのまとめ」があり参加した。「いま夢見る世界は何か」の、これまでにオンラインで行った、



5回延べ150人余りが参加したプレ企画を通じて見えてきたものを多くの参加者と共有し、さらに議論を深めるといふもの。ザメンホフがエスペラントを創案した動機はもはや古い。これを主張しても「エスペラント原理主義運動」になってしまう。「限界集落」のおそれのあるエスペラント界において、「プラハ宣言」で述べられた、エスペラント運動の定義も知識として持ちつつ、我々は何者で、何を夢見ているのか、各参加者はそれぞれの知識を披露し、意見を述べ合った。

JEI 広報委員会の分科会があった。「私のエスペラントジャーニー」と題した演習を行うというもの。実は主催者、JEI 広報委員会の南波文晴さんに *babilejo* で、余った配布用の書類をもらって話を聞いた。私にとっては示唆に富むものであった。人はエスペラントという名称を聞いて、意味を知ってすぐに魅せられて学習を始めるものではない。認知→

興味→学習開始→再開→深入りと。そこには人それぞれの“*Mia Esperanto-Vojaĝo*”があるのだ。急いではいけない。押し付けてはいけない。まずは大勢に認知してもらうことだ。というのである。

Rotary Club de Esperanto-Brasil を紹介する分科会にも行った。ブラジル人のその人は、ロータリークラブが社会を良くしようとする団体であるのと、エスペラント運動は通じるものがあるという。

エスペラント大会の常であるが、古い知り合い・友人との再会、楽しい会話など、ひそかに相手のことを、しばらく見ないうちに老いたなと感じながらも楽しんだ。とはいうものの、若い人も多いなと感じた。ある人はこう分析する。「世界に一つだけの花」で「ナンバーワンよりオンリーワン」と歌われ、受けた。で、若い人にとってはオンリーワンを志向して「英語よりもエスペラント」という空気があるのではないかと。

児童文学からウクライナ情勢まで、多様な話題の大会

10月21日・22日の両日、第110回日本エスペラント大会を Zoom を使ってリモート参加した。

特に印象に残ったのは、2日目に行われた「こまつあやこさんトークショー」。こまつさんは児童文学作家で、作品のひとつ『ポーチとノート』は本誌2021年12月号で紹介されている。

こまつさんはこれまで発表した著作を、スライドを使って一つずつ解説していった。学校給食で宗教上の制約がある生徒が登場したり、思春期の性のとまどいが描かれていたり、読み手の視野を広げるような作品ばかりだと感じた。ご本人は「多様性を書こうと思って書いているわけではない」とおっしゃっていたが……

『ポーチとノート』では主人公がエスペラントを学ぶのだが、読者からエスペラント文で感想が届いて「Google で翻訳しました」と書かれていたと聞いておどろいた。『ドラえもん』に登場する「ホンヤクコンニャク」はすでに現実に存在しているのだ、と思った。

フィンランド出身でロシアやウクライナにある大使館に勤めたこともある Kalle Kuniivilä さんのお話「ウクライナの『今』を知る」はオンライン講演で、2023.12

相川 節子（京都府）

会場の人たちも画面を見ながらの視聴。木村護郎クリストフさんが通訳した。ロシアにもウクライナにもそれぞれ言い分があり難しいが、言論の自由があるのはウクライナの方だという印象を受けた。講演後、聴衆が書いた質問を集め、木村さんが次々エスペラント訳して Kalle さんに質問、その答えをすぐさま日本語に翻訳する。昨年も見えた光景ではあるが、木村さんの通訳ぶりに感服した。単なる語学力だけでできることではないだろう。

本当は現地へ行って会場の雰囲気を感じたかったのだが、仕事の都合でリモートになった。店番をしながら、つまり来客や電話の対応をしながら大会のプログラムを見聞きしたわけで、「参加」というよりは「単なる視聴」と言う方が正確かもしれない。中途半端なやり方で、大会関係者には申し訳ないが、自分としてはこんな形でも参加できてよかった。

[編集部より]

第110回日本エスペラント大会の参加登録者は307人、そのうちオンラインのみでの参加は78人（国外22人を含む）、不在参加17人。公開番組に参加した一般市民は45人でした。



①新しい小学校は丘の向こうに建てられた。

【訳例1】La nova elementlernejo estis konstruita trans la monteto. (yosie)

【訳例2】La nova bazlernejo estis konstruita sur la alia flanko de la monteto. (Celejo)

【訳例3】Nova elementa lernejo estis konstruita trans la monteto. (ikona, Haveno)

「丘の向こう」は trans la monteto で表現できるでしょう。transa flanko de la monteto も間違いではないのですが、川や道路、広場などについて使うことが多い表現なので違和感があります。

訳例1は「小学校」に elementlernejo を使い、esti konstruita (建設された)と受動態で表現しています。他の訳例も同様に受動態を使っています。「小学校」は訳例2も一単語にしていますが、訳例3のように elementa lernejo で表現する方がいいと思います。「丘の向こう」は訳例2のように sur la alia flanko de la monteto と表現できます。

なお「小学校」部分が elementalernejo の訳例がありました。空白を入れて2単語に分けましょう。

②校庭の用地はまだ造成中だ。

【訳例1】Oni ankoraŭ ebenigas la terenon de la lerneja korto. (yosie)

【訳例2】La tereno por la lerneja korto ankoraŭ estis aranĝata. (Haveno)

【訳例3】Lerneja tereno estas ankoraŭ en konstruado. (CA)

「校庭」には lerneja korto が使えるでしょう。

訳例1は「造成」を ebenigi ion (平坦にする)と言い換えています。「造成」は土地などをすぐ使えるように手を加えることですから、校庭として使えるよう土地を平坦にしているとの判断でしょう。校庭の端を埋め立てて拡張中かもしれません。

訳例2は点動詞 aranĝi ion (整える)と受動継続分詞 -at- を使っているの、何かの作業が繰り返されていたのでしょうか。訳例1とは異なりどのような作業かがぼんやりしています。

訳例3は「校庭」に lerneja tereno を使っていますが、これは「学校の敷地」を指すと思います。

また en konstruado (建設中)を使っているので学校全体がまだ工事中の感じがします。

③丘のこちら側では道路工事をしている。

【訳例1】En ĉi tiu flanko de la monteto oni konstruas vojon. (yosie)

【訳例2】Oni faras vojkonstruon sur ĉi tiu flanko de la monteto. (Eiko)

【訳例3】Sur ĉi tiu flanko de la monteto vojkonstruado estas farata. (ikona)

「~のこちら側」は maltrans や ĉi-flanke de で表現できるでしょう。

訳例1はすっきりとした表現で分かりやすいと思います。訳例2は vojkonstruo を使うことで、訳例1より「道路工事」を強調する感じがします。訳例3は受動継続の分詞形容詞を使って工事が継続中であることを明示していますが、少し重い感じです。

訳例1は「こちら側」の前置詞に en を、訳例2、訳例3は sur を使っています。en は内部、または状況・動作を示すので「こちら側の状況」、sur は何かの表面を意味するので「こちらの丘陵面上」というところでしょうか。応募者の訳例10例中5例が en、4例が sur を使っていました。

④彼はがけ道を上って畑の間の道を進む。

【訳例1】Li supreniras la vojon sur krutajo kaj vojiras inter la kampoj. (綴り修正: Celejo)

【訳例2】Li supreniris la krutan deklivon kaj plu iras sur la vojo inter la kampoj. (yosie)

【訳例3】Li iras supren laŭ kruta vojo kaj marŝas inter kampoj. (綴り修正: はるちゃん)

「がけ道」には kruta (険しい、切り立った)が考えられます。kruta vojo (険しい道)、krutajo (急坂)などの用例があります。

訳例1は「がけ道」を「急坂上の道」としてそれを supreniri ion で「上がる」と表現しています。vojiri は道に行く、旅路に行くという意味です。

訳例2は道を明示せず、kruta deklivo (急な坂)と表現しています。丘のこちら側は道路の建設中なので、道らしい道は無いとの解釈でしょう。

訳例3は「険しい道に沿って上の方に行く」なので、険しい道を通るのかどうか少し曖昧です。後半は marŝi (行進する)なので畑の間の道はちょっと長いかもしれません。

(成績は p.12 新しい課題は p.13)

Songoj dum Dek Noktoj (12)

NATUME Sôseki, trad. OKI Keimei

La sesa nokto (daŭrigita)

Sed, en lia flanko, li aspektis tiel, ke li tute ne sentas tian staton stranga aŭ neordinara, kaj fervore skulptis. Unu juna viro, kiu estis en la pozo direkti sian vizaĝon supren al Unkei tiel kondukanta, turnis sian vizaĝon al mi, kaj eklaŭdis lin, dirante:

“Unkei ja meritas laŭdon. Li tute ne zorgas pri nia spektado. Grandfama heroo kondukas tiel, ke nur ekzistas li kaj Niô en la mondo. Admirinde!”

La vortoj elbuŝigitaj de li estis interesaj, mi pensis. Kaj, kiam mi iom ĵetis mian rigardon al li, li tuj diris:

“Rigardu Unkei, kiel uzi skulptilon kaj maleon. Lia tekniko atingis tiel altan nivelon, ke li tute libere manipulas la ilojn laŭ sia koro.”

Unkei nun horizontale elreliefigis dikajn brovojn je alteco de unu sun-o (ĉ. 30 milimetroj)⁹⁾ de la surfaco de la vizaĝo, uzante skulptilon kaj maleon. Kaj, kiam li apenaŭ starigis la klingon de la skulptilo, li batis la kapon de la skulptilo per la maleo en oblikva direkto kontraŭ la statuo. Mi vidis, ke li po iomete skrapis la malmolan lignon kaj lignoruboj flugis je ĉiu batsono de la maleo. Tiam mi rimarkis ke ekreliefiĝis flankaj partoj de la nazo kun la nazloboj larĝe ŝveligitaj kaj kun grande malfermitaj naztruoj. Lia tia forhakado de lignopecoj per skulptilo estis senhezita. Ŝajnis ke nenia dubo intervenas en lian laboradon.

“Kia estas lia mirinda tekniko, ke la brovoj kaj la nazo estis tiel bone faritaj laŭ lia intenco malgraŭ kun lia tiel senprofunde konsiderata manipulado de skulptilo!” mi kvazaŭ monologe diris, ĉar mi estis impresita.

Tiam diris la junulo antaŭe parolinta: “Ne necesas esti impresita. Li ne faris la brovojn kaj la nazon per skulptilo, sed nur elfosis ilin el la ligno per skulptilo kaj maleo, kiel se oni elfosas ŝtonojn el sub la tero. Tial li neniel faras eraron.”

En tiu momento mi unuafoje ekpensis, ke

夢十夜 (12)

夏目 漱石

第六夜 (承前)

しかし運慶の方では不思議とも奇体ともとんと感じ得ない様子で一生懸命に彫っている。仰向(あおむ)いてこの態度を眺めていた一人の若い男が、自分の方を振り向いて、

「さすがは運慶だな。眼中に我々なしだ。天下の英雄はただ仁王と我(わ)れとあるのみと云う態度だ。天晴(あっぱ)れだ」と云って賞(ほ)め出した。

自分はこの言葉を面白いと思った。それでちょっと若い男の方を見ると、若い男は、すかさず、

「あの鑿(のみ)と槌(つち)の使い方を見たまえ。大自在(だいじざい)の妙境に達している」と云った。

運慶は今太い眉(まゆ)を一寸(いっすん)の高さに横へ彫り抜いて、鑿の歯を豎(たて)に返すや否や斜(は)すに、上から槌を打(う)ち下(おろ)した。堅い木を一(ひ)と刻(きざ)みに削(けず)って、厚い木屑(きくず)が槌の声に応じて飛んだと思ったら、小鼻のおっ開(びら)いた怒り鼻の側面がたちまち浮き上がって来た。その刀(とう)の入れ方がいかにも無遠慮であった。そうして少しも疑念を挟(さしはさ)んでおらんように見えた。

「よくああ無造作(むぞうさ)に鑿を使って、思うような眉(まみえ)や鼻ができるものだな」と自分はあるまり感心したから独言(ひとりごと)のように言った。するとさっきの若い男が、

「なに、あれは眉や鼻を鑿で作るんじゃない。あの通りの眉や鼻が木の中に埋(うま)っているのを、鑿と槌の力で掘り出すまでだ。まるで土の中から石を掘り出すようなものだからけって間違うはずはない」と云った。

自分はこの時始めて彫刻とはそんなものかと思

skulptado ŝajne povas esti tia, kaj ke, se tio estas vera, ĉiu ajn povas fari tian skultadon. Sekve, ĉar mi abrupte volis skulpti la statuon Niô, mi ĉesis rigardi lian skulptadon kaj tuj reiris hejmen.

Kiam mi elprenis skulptilon kaj martelon el ilarujo kaj iris malantaŭ mian domon, mi trovis ke facile uzeblaj multaj ŝtipoj estis stakitaj tie, ĉar mi petis segiston segi la kverkon, kiu falis surteren iam antaŭe pro ŝtormo, por fari brullignojn el ĝi.

Mi elektis la plej grandan pecon, kaj energie ekskrapis la lignon, sed, malfeliĉe, Niô ne troviĝis. Malbonŝance, mi ne povis elfosi ankaŭ en la sekvanta. Eĉ en la tria ne estis. Mi skrapis stakitajn lignojn unu post alia, sed neniu ligno kaŝis en si la statuon Niô. Fine, mi konvinkiĝis ke ĉiuokaze Niô ne estas kaŝita en la lignoj de la periodo Meiji(Meiji). Tial mi preskaŭ komprenis, kial Unkei vivas eĉ ĝis hodiaŭ.

Rimarkoj (La sesa punkto):

9) sun-o (寸): "Sun" estas unu el japanaj mezurunuoj por longeco. Unu sun-o egalas al 1/33 metro (30.303 milimetroj) en Japanio. Nun tiu mezurunuo preskaŭ ne estas uzata en Japanio.

出した。はたしてそうなら誰にでもできる事だと思出した。それで急に自分も仁王が彫(ほ)ってみたくなったから見物をやめてさっそく家(うち)へ帰った。

道具箱から鑿と金槌(かなづち)を持ち出して、裏へ出て見ると、せんだっての暴風(あらし)で倒れた樜(かし)を、薪(まき)にするつもりで、木挽(こびき)に挽(ひ)かせた手頃な奴(やつ)が、たくさん積んであった。

自分は一番大きいのを選んで、勢いよく彫(ほ)り始めて見たが、不幸にして、仁王は見当らなかった。その次のにも運悪く掘り当てる事ができなかった。三番目のにも仁王はいなかった。自分は積んである薪を片(かた)っ端(ぼし)から彫(ほ)って見たが、どれもこれも仁王を蔵(かく)しているのはなかった。ついに明治の木にはとうてい仁王は埋(うま)っていないものだど悟った。それで運慶が今日(きょう)まで生きている理由もほぼ解った。



tenejo

Unua Stelo (一番星みつけた)

poez. OINUMA Masaru, muz. NOBUTOKI Kiyosi, trad. Kelonio

♩ = 120 Am Em Am

1) Ste - lo U - nu - a ki - el me - dal'
bri - las su - per la ar - bar',
ti - e ĉe krip - to - me - ri - ar'

一番星みつけた

生沼勝詞、信時潔曲

1) 一番星みつけた

あれあの森の 杉の木の上に

2) 二番星みつけた

あれあの土手の 柳の木の上に

3) 三番星みつけた

あれあの山の 松の木の上に

Unua Stelo

poez. OINUMA Masaru, muz. NOBUTOKI Kiyosi, trad. Kelonio

1) Stelo Unua kiel medal'

brilas super la arbar', tie ĉe kriptomeriar'

2) Stelo la Dua kiel medal'

brilas super river-rand', tie ĉe verda salikar'

3) Stelo la Tria kiel medal'

brilas super la montar', tie ĉe nigra pin-arbar'

54 La Flosponto en la Songô – Yume no Uki-Fasi – (6)

源氏物語第 54 帖 夢浮橋 ゆめのうきはし (6)

eljapanigis belmonto

“Mi estas embarasita kaj ne havas vortojn respondi al vi, timante, ĉu vi sentos min kaŝema. Mian mizeran staton vi jam vidis por miro. Tiam mi perdis sanan spiriton, kaj perdis animon kaj aktivecon. Mi ne povas rememori antaŭajn okazintaĵojn iel kaj ĉiel. Nura apenaŭa memoro estas pri la Estro de la Provinco *Kij*; en lia rakonto mi perceptis iom da informo, kie mi loĝis. Mi daŭre klopodis post tio eltrovi mian profundan memoron pli kaj pli, sed vane.

“Unu sola patrino dume zorgis pri mia feliĉo, kaj mi estas malkvieta, pripensante, ĉu ŝi ankoraŭ vivas – tio malĝojige okupas mian koron de tempo al tempo. Rigandante tiun knabon hodiaŭ, mi rememoras, ke mi vidis lin en mia juneco, kaj fariĝis sopirema. Sed mi volas, ke oni ne sciu min. Mi nur volas vidi mian patrinon sola, se ŝi ankoraŭ tenas sian vivon. Mi volas, ke neniel eksciu tiu persono, kiun la *soŭduo* mencias. Bonvole kaŝu min ĉe vi, anoncante al Frateto, ke tia informo estas tute erara.”

“Ho, tre malfacila afero! La *soŭduo* estas la plej honesta el ĉiuj sanktaj pastroj, do li estus rakontinta la tutan aferon. Ĉio malkaŝiĝos poste. La *Dajŝaŭo* ne estas tiel malpeza rangulo kiel facile mensogi.”

Ĉiuj estantoj malkvietiĝis.

“Ho, kiel obstina ŝi estas, neniam ekzistipova en la mondo!”

Ili konsilis, metis la kurtenon inter la koridoro kaj la subtegmento, kaj invitis la senditon enen.

Frateto, ankoraŭ juna, jam aŭdis de la *Dajŝaŭo* ke lia fratino estas tie, sed hezitis rekte alparoli.

2023.12

「げに隔てあり、と思しなすらんが苦しさに、ものも言はれでなむ。あさましかりけんありさまは、めづらかなる事と見たまひてけんを、さてうつし心も失せ、魂(たましひ)などいふらむものもあらぬさまになりけるにやあらん、いかにもいかにも、過ぎにし方のことを、我ながらさらにえ思ひ出でぬに、紀伊守(きのかみ)とかありし人の世の物語すめりし中になむ、見しあたりのことにや、とほのかに思ひ出でらることある心地せし。その後(のち)、とざまかうざまに思ひつづくれど、さらにはかばかしくもおぼえぬに、ただ一人ものしたまひし人の、いかで、とおろかならず思ひためりしを、まだや世におはすらんと、そればかりなむ心に離れず悲しきをりをりはべるに、今日見れば、この童の顔は小(ちひ)さくて見し心地するにもいと忍びがたけれど、今さらに、かかる人にもありとは知られでやみなむとなん思ひはべる。かの人もし世にものしたまはば、それ一人になむ対面(たいめん)せまほしく思ひはべる。この僧都のたまへる人などには、さらに知られたてまつらじとこそ思ひはべれ。かまへて、ひが事(こと)なりけり、と聞こえなして、もて隠したまへ」とのたまへば、

「いと難(かた)いことかな。僧都の御心は、聖(ひじり)といふ中にも、あまり隈(くま)なくものしたまへば、まさに残(こ)いては聞こえたまひてんや。後(のち)に隠れあらじ。なのめに軽々(かるがる)しき御ほどにもおはしまさず」

など、言ひ騒ぎて、

「世に知らず心強くおはしますこそ」

と、みな言ひあはせて、母屋(もや)の際(きは)に几帳(こ)たてて入れたり。

この子も、さは聞きつれど、幼ければ、ふと言ひ寄らむもつつましけれど、

「またはべる御文、いかで奉らん。僧都の御(おほむ)

“Jen mi portas la alian leteron de mia mastro. Kiel mi transdonu? La *soŭduo* certigis, sed mi ne estas certa, ke vi estas tie.”

Li monologis kun mallevitaj okuloj.

“Tre bone! Kiel klera li estas!”

La monaĥino aldonis:

“La adresito ŝajnas sidanta ĉi tie. Flankuloj nur rigardas kurioze, ne komprenante la aferon. Bonvole proklamu vian vorton klare. Vi estos la fidinda homo, kiun la *Dajŝaŭo* sendis, malgraŭ ke vi estas tiel juna.”

Frateto respondis iom iritive:

“Kion mi diros, se ŝi traktas min tiel distinge! Mi ne plu havas vorton diri al ŝi, ĉar ŝi sentas min ĝena. Mia mastro ordonis al mi rektan transdonon de ĉi tiu letero.”

“Jes, tio estas komprenebla. Jen, vi ne estu tiel obstina. Vi estas agresita de malvarma koro.”

Ili perforte movis ŝin proksimen al la kurteno. Ŝi sidis tute spiritforeste. La knabo sensis najbaran personon sia fratino trans la netravigebla kurteno, do ankaŭ li plu proksimiĝis kaj transdonis la leteron.

“Mi ricevos vian baldaŭan respondon kaj foriros.”

Je ŝia malvarma akcepto li malĝojis kaj rapidis retroiron.

10. Flosboato rifuzas respondon

La monaĥino malfermis la leteron kaj montris ĝin al Flosboato. Lerta skribado, paperpenetranta bonaodoro – ĝuste tio, kion ŝi kutimis ricevi antaŭe. Ĝi povos esti la trezoro por kuriozuloj.

“Mi petis de la *soŭduo*, ke li senpekigu vin, havantan pezan pekon. Mi nun simple volas rakonti kun vi pri pasintaj aferoj kiel en sonĝo. Io pelas min urĝa, kaj mi estas malpacienca. Kiel oni vidos mian figuron?”

(daŭrigota)

ŝirbe, tashikanao, kakobotsukanokubero
koso

to, fumi (fumi) ni to ieba,

“soso. anau tsuki”

nao ieba,

「御文御覽すべき人は、ここにものせさせたまふ
めり。顯証(けそう)の人なむ、いかなることにか、
と心得がたくはべるを、なほのたまはせよ。幼き御
ほどなれど、かかる御しるべに頼みきこえたまふや
うもあらむ」

nao ieba,

「思し隔てて、おぼおぼしくもてなさせたまふに
は、何ごとをか聞こえはべらん。うとく思しなりに
ければ、聞こゆべきこともはべらず。ただ、この御
文を、人づてならで奉れとてはべりつる、いかで参
らむ」

to ieba,

「いとことわりなり。なほ、いとかくうたてな
おはせそ。さすがにむくつけき御心にこそ」

と聞こえ動かして、几帳のもとに押し寄せたてまつ
りたれば、あれにもあらでみたまへる、けはひこと
人には似ぬ心地すれば、そこもとに寄りて奉りつ。

「御返りとく賜はりて、参りなむ」

to, kakou to shiki o, kokoro o shirabete, isogu.

10

尼君、御文ひき解きて見せたてまつる。ありしな
がらの御手にて、紙の香(か)など、例の、世づか
ぬまでしみたり。ほのかに見て、例の、ものめでの
さし過ぎ人、いとあり難くをかし、と思ふべし。

さらに聞こえお方なく、さまざまに罪重き御心をば、
僧都に思ひゆるしきこえて、今は、いかで、あさ
ましかり世の夢語(ゆめがたり)をだに、と急がる
る心の、我ながらもどかしきになん。まして、人
目はいかに。

(続く)

どうして戦争をするのか？ 異星人からみれば、人類は精神に障害があるように思える。

Mildaj eksterteranoj

En la sciencfikcia romano, “La Mildaj Gigantoj de Ganimedo” (“The Gentle Giants of Ganymede”) verkita de James Patrick Hogan¹⁾, estis sceno, kie AI (=Artefarita Intelektio)-komputilo de la eksterteranoj lernis la vorton “milito” de la ĉefrolulo. La komputilo konfuziĝis kaj opiniis ke homaro havis cerbodamaĝon aŭ eble homaro estis frenezaj, kaj havis gravan mensan malsanon. Ne nur ĉi tiuj eksterteranoj ne havis la vorton “milito”, ili havis neniun koncepton pri milito!

1) Sciencfikcia verkisto naskita en Londono, Anglio. En julio de ĉi tiu jaro (2023), nova eldono de lia debuta kaj sentempa ĉefverko “Heredanto de la Steloj” (“Inherit the Stars”) estis publikigita de Tokyo Sogensha (東京創元社). “La Mildaj Gigantoj de Ganimedo” estas la daŭrigo de “Heredantoj de la Steloj”.

Militoj daŭras

La milito inter Rusio kaj Ukrainio daŭre daŭras ekde la armea invado de Rusio al Ukrainio en februaro 2022. Aldone milito komenciĝas inter Israelo kaj Hamaso²⁾, rezultigante human krizon en multaj loĝantoj de la Gazao-strio.

2) Hamaso, islama rezisto-movado, estis fondita en 1987. Estas armita organizaĵo luktanta por liberigo de Palestino per uzo de perforto.

Kial homoj militas?

Kion homoj provas gajni per milito, kvankam ĝi alportas nur malamon kaj malesperon al homoj? Ĉu estis venĝo por liaj murditaj kamaradoj? La novaĵo, ke aviadilaj atakoj sur la Gazao-strio mortigis centojn da homoj en nur unu tago, estas korŝira. Ekde la invado de Rusio al Ukrainio, tro da eventoj rilataj al militoj vundis niajn korojn. Ĉar milito estas ago mortigi homojn, oni neniam povas

racie kompreni ĝin. Mi povas kompreni, kial eksterteranoj ne povis kompreni militon. Ĉar eĉ homoj ne povas kompreni kial homoj militas? Ĉu tio signifas, ke homoj havas cerbodamaĝon, aŭ ĉu ili povus esti mensmalsanaj kiel montras la eksterterana AI-komputilo?

Milito estas amasa murdo!

Murdo estas malpermesita per leĝo en ĉiu lando, kaj multaj religioj konsideras ĝin grava peko. Malgraŭ tio, la murdoj daŭras. Milito ankaŭ neniam finiĝas. Murdo kaj milito ankoraŭ mortigas homojn. Eble ĉu homoj ŝatas mortigi homojn? Murdo estas traktita en mitoj kaj romanoj. Kompreneble, fikcio kaj nefikcio estas malsamaj aferoj. Se oni pensas pri la realo, oni devus esti facile kompreni, kian efikon mortigo havas. Sed homoj ne povas kompreni tion.

Ĉu nun estas epoko, en kiu la forto pravas?

Kiam homoj evoluis el homsimioj kaj moviĝis de vivado en arboj al prerioj, homoj sen dentegoj aŭ akraj ungegoj estis atakitaj kaj manĝitaj de karnomanĝuloj. Homa supervivo estis ĉefe pro la uzo de fajro kaj iloj, kaj la kapablo funkcii kiel grupo. Mi scivolas, ĉu la genoj de la epoko de postvivado de la plej kapabla estas transdonitaj ĝis la nuna tago. En modernaj tempoj, la alia persono ne estas karnomanĝulo, sed kunulo. Kial ni estas dividitaj en kamaradoj kaj malamikoj surbaze de religio, etneco, nacio, aŭ ideologiaj diferencoj? Kial ne trakti malamikojn kiel la samajn homojn? Kaj ĉu la konflikto inter kamaradoj kaj malamikoj finfine kondukos al milito?

Iel ni devas ĉesigi la sangadon

Eĉ se ni ne scias kial homoj militas, kiom ajn malfacile estas ĉesigi militon post kiam ĝi komenciĝis, ni devas provi haltigi ĝin kaj fari ĉion eblan por helpi la viktimojn de milito. Estas same stulte kiel enŝovi tranĉilon en nian brakon kaj provi ĉesigi la sangadon, sed ni ankoraŭ devas ĉesigi la sangadon, alie ni ne pluvivos.

vidis eksciis sentis

Nova fama loko estas naskita en la urbo Nara

(la utao-monumento de MORI Ogai¹⁾
en la templo Ĵuurin-in (十輪院))

TAKEMORI Hirotoŝi (Nara)

Utao-Monumento de MORI Ogai estis starigita en la templo Ĵuurin-in en Nara-maĉi²⁾ en la urbo Nara je la 4a de septembro. Ĝin donacis TAKEMURA Teruo (竹村照雄), membro de Nara Esperanto-Societo. Oni tre ĝojas, ke nova turisma vidindaĵo malfermiĝis en Nara.

- 1) Pri MORI Ogai, vidu paĝojn 61 kaj 79-81 en la libro "Nara, la eksĉefurbo en malproksimaj tagoj".
- 2) "Nara-maĉi" estas areo kun historia urbpejzaĝo situanta en la sudorienta parto de la urbocentro de la urbo Nara.

La sekvanta estas citaĵo de Asahi-Gazeto Ciferenca:

En la Templo Ĵuurin-in en Ĵuurin-ĉo en la urbo Nara estis kompletigita la Monumento de unu utao el la "Kvindek utaoj en Nara" verkita fare de Mori Ogai (1862-1922), literaturo-giganto en Meĵi-epoko, kiu skribis tankaĵojn pri liaj impresoj de Nara, kiam li estis nomunita kiel la ĉefo de la Naciaj Muzeoj (nuntempa Tokio-, Kioto-, kaj Nara-Naciaj Muzeoj) en liaj pli postaj jaroj.

S-ro TAKEMURA Teruo (88-jara) el Kanmaki-ĉo, kiu jam de multaj jaroj laboras kiel volontula gvidisto en Gubernio Nara, jam de ĉirkaŭ 25 jaroj atentas la "Kvindek utaojn de Nara", kaj kreis kurson, kiu sekvas tiujn etapojn. Li ankaŭ publikigis mempublikigitan gvidlibron. Tamen li bedaŭris, ke tiu ĉi verko ne estas konata en Nara kaj ne estas monumento pri la poemaro.

Tiutempe, li ricevis dankleteron de la kaligrafo, kiun li gvidis tra la prezentado de la 50 utaoj, kie estis skribita unu utao de Ogai,

La Movado 874

"Nostalgia lok' templo Ĵuurin-in jen estas blua bird'. Idoj serĉe iras al maljunula la ĝarden'."

「なつかしき 十輪院は 青き鳥 子等 (こら) の たづぬる 老人 (おいびと) の庭」

La ĝardeno de Ĵuurin-in ankoraŭ konservas tipan Nara-maĉi-pejzaĝon. Li ekpensis, ke iam li ŝatus lasi ĉi tiun utao kiel monumenton. Ĉi-jare, okaze de sia 88a naskiĝtago, li decidis donaci la monumenton al la templo. La kreadon de la monumento li komisiis al skulptisto, s-ino SAKAGUCHI Kiyomi (坂口紀代美). Ŝi uzis verdan graniton por esprimi la bluan birdon desegnita en la utao. S-ro TAKEMURA diras: "Mi esperas, ke homoj, kiuj vidas ĉi tiun monumenton, havos ŝancon lerni pri la rilato inter Ogai kaj Nara."



奈良西部公民館文化祭

竹森 浩俊 (奈良)

2023年10月21日、奈良市西部公民館の文化祭に奈良エスペラント会として初参加した。「国際語エスペラント、ミニ講座」と称し、興味ある方にJEI発行の書籍「通い合う地球のことば 国際語エスペラント」を使ったミニ講座を企画した。

参加メンバーは4人、竹森が書籍「通い合う地球のことば」購入、展示物(KLEGから借用)と奈良エスペラント会の紹介のチラシの準備、本田照美さんにはご自分のエスペラントの本を持ってきてもらい、中西とし子さんが長谷川テルの記念碑の説明と記念碑がある般若寺への道案内および周辺観光案内のチラシの準備、田中郁さんは当日店番を担当した。

奈良エスペラント会の竹村照雄さんも来場してくれた。

幸運にも「通い合う地球のことば」は特価販売により半額で購入でき、40冊のうち36冊が配布できた。

来場者の中に中西とし子さんの知り合いの方が多く、事前に知人の方に広く連絡頂いたおかげだ。

日本語もおぼつかないのにエスペラントはちょっとという方が何人か、興味を持っていただいた方も何人かいた。いろいろな方の生の声を聞けるのは展示会の醍醐味。今後も機会があれば展示会に取り組みたい。



La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La

各地のザメンホフ祭予定

11月26日(日) 京都、近江、枚方、宇治城陽合同。13時～16時半、エスペラント会館で。

12月9日(土) はりま、神戸合同。13時～、神戸生活創造館(JR 新長田駅海側、新長田合同庁舎1階)で。忘年会は鉄人28号斜め向かいの居酒屋「杉玉」で。

12月16日(土) 宮崎エスペラント会。14時～宮崎市民プラザ4階中会議室で。

12月17日(日) 北摂ザメンホフ祭(池田、茨木、吹田、高槻、豊中合同)。13時半～16時半、吹田市立千里山コミュニティセンター創作室で。池田の狂言は新作「平泉」(秀衡と牛若)。

12月17日(日) 大阪、堺、富田林、奈良、和歌山合同。13時半～16時半、大阪市立中央区民センター、第3会議室で。終了後、有志による懇親会を行う。

10月の土曜エスペラント会

オンラインで14日に開催された。出席6人(内、海外から1人)。まず、「EPA 創立100周年記念行事に来日したカタリン・コバッチ博士」について報告を聞いた。来日しなかったマルガレータ・ザレスキ・ザメンホフ博士のオンライン講演はネットで視

2023.12

聴できるとのこと(<https://www.youtube.com/watch?v=gQIomzr5Cbs>)。その他、「国民読書の日に朗読されるポーランド作家」、「中秋の名月」、「甲州街道を歩く」等の発表と討議があり、エスペラントだけの時間を満喫した。 [←山川 修一]

宮崎エスペラント会例会

10月14日(土) 14時～15時半、宮崎市民活動センターで。参加3人。La Praktikanto n-ro46、Esperanto 誌を配布。La Tamtamo 誌、Novajoj Tamtamas 誌を回覧。輪読は、Monato 2023年08-09月号の“Kiom da vero pri mRNA-vakcinoj kontraŭ kancero?”。 [←近藤 方彰]

ミレイユ・グロジャン上智大学で講演

スイスから来日中で日本エスペラント大会にも参加したミレイユ・グロジャン(Mireille Grosjean)さんが、上智大学ヨーロッパ研究所でドイツ語とエスペラントで2回の講演を行った。通訳は木村護郎クリストフさん。

テーマと時間帯：10月18日(水) 17時半～19時に対面で「スイス — 文化のモザイク」(ドイツ語)、20日(金) 15時半～17時はZoomで「覇権言語、国際語、共通語」(エスペラント)。 [←北



川 郁子]

姫路国際交流フェスに参加

はりまエスペラント会は 10 月 29 日 (日) 10 時 ~ 15 時、姫路城南の大手前公園で第 25 回ひめじ国際交流フェスティバルに参加しエスペラント関連の展示を行った。好天に恵まれ人出も多くエスペラントぬり絵が子供たちに好評だった。[←塚本 猛]

2024 年は日韓共同開催大会

第 111 回日本エスペラント大会は、第 3 回日韓共同開催大会として 2024 年 10 月 4 日 (金) ~ 6 日 (日) に大韓民国の全州市 (チョンジュ) で開催される。

また、2025 年の第 11 回アジア・オセアニア大会は、UEA / KAOEM の要請を日本エスペラント協会が受けて 2025 年 10 月 31 日 (金) ~ 11 月 3 日 (月・祝) に日本で開催されることになった。開催地は未定。[←木元 靖浩]

福本博次さんに小坂賞

10 月 21 日 22 日 (土・日) に川崎市で開催され

た日本エスペラント大会会場で、福本博次さん (和歌山エスペラント会) に小坂賞が (代理人に) 授与された。エスペラント辞典および “La Movado” や “La Revuo Orienta” を電子化した労を多とした。

京都観芸祭で展示とステージ

京都府が主催する観芸祭 (かんげいさい) が 10 月 28 日から 9 日間開催された。その中で、京都エスペラント会は 10 月 28 日 (土) 13 時 ~ 16 時半、京都府庁日本館の旧議場 (重要文化財) にて「エスペラントって何?」というタイトルで展示とステージを行った。エスペラント関係者を含め、20 数人が参加した。内容は次のとおり。①サクソと電子ピアノの演奏、②エスペラントの説明、③「蜘蛛の糸」の朗読、④野田淳子さんの弾き語り、⑤講演「長谷川テル (Verda Majo) の国際主義」、休憩、⑥会長の挨拶、⑦講演「エスペラントと日本語の距離感を測る」、⑧サクソと電子ピアノの再演奏、⑨参加者からのエスペラントについての質問と回答、⑩ “La Vojo” の説明と歌唱、⑪全員で “La lingvo por ni” 歌唱。3 時間 30 分という長丁場であったが、満足いく内容であった。[←森川 和徳]



天つ風
雲のかよひ路
吹きとぢよ
をとめの姿
しばしとどめむ

(12 僧正遍昭 816-890)

小倉百人一首 Cent Versis Utaon

tradukis SIMATANI Takesi

Mi petas, Zefir',
bloku vojon al ĉiel'
portempe por mi!
Restu plue sur la ter',
la plej bela vi, anĝel'!

(Sooĵoo Henĵoo)

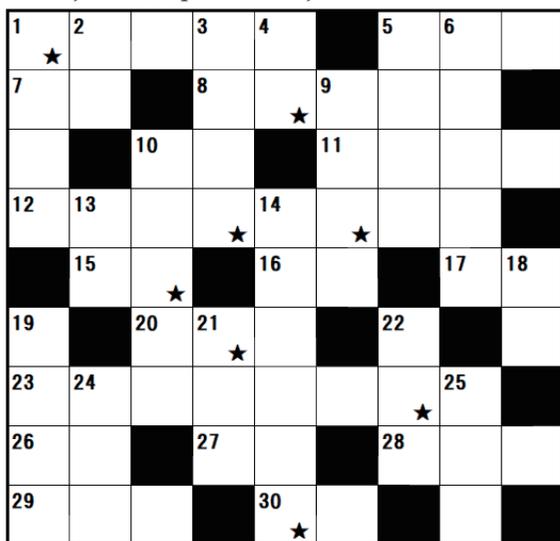
Vortkruca enigmo

Anonimulo

Vicigu adekvatan 8 literojn trovitajn en la kvadratetoj kun stelo. Tiam vi akiros unu el la koncernataj ŝtatoj al nuna monda milito.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de decembro, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retpoŝte al <lamovado@gmail.com>.

Rimarko: multaj vortoj estas sen finaĵo, sed vortoj kun (f) portas finaĵon.



Horizontale: 1. Vi feliĉe havas patron, kiun vi povas ~ (f). 5. ~ via ordono! 7. ~ nur A, sed ankaŭ B. 8. ~ ol mi atingis, buso jam ekiris. 10. kat~o, hund~o. 11. Mi trovis en la monto multaj defal~jn fruktojn(f). 12. Li akumulis ~n da mono(f). 15. ~ vi jam solvis la enigmon? 16. ~o=Eternulo. 17.~skribi, ~veni, ~en. 20. Tigro forkuris el la ~ (f). 23. La sekvantaj someraj ~j okazos en Parizo(f). 26. Ho, ~. 27. Ĝi devas esti elfariĝ~a post tagoj. 28. Multaj ~antoj estis en la parko. 29. Mia ~ naskiĝis en la kamparo de Nara (f). 30. ~n ajn mi iros.

Vertikale: 1. grand~o, et~o, ~o=spirito. 2. ek~, dis~, for~. 3. ~oaparato, ŝalti ~on, sun~oj. 4. fil~o, vir~o, ~o. 5. Finn~o.

6. ~o = verkinto. 9. al~ atenton, ~ loton (f). 10. droni en lia ~o, optika ~o. ~o=fantazio. 13. Bov~o=virbovo. 14. =filigi. 18. infan~o, pluv~o, dorm~i. 19. ~ĵo, mal~, ~ gazeto(f). 21. unito de elektro(f). 22. Likva kombinaĵo de hidrogeno kaj oksigeno. 24. Meti objekton aŭ estaĵon al pli alta nivelo. 25. la ~oj de Saharo.

La solvo al la oktobra enigmo: KASTELO

La ĝustan solvon donis 12 legantoj:

CA,
濱田 國貞,
Sayuri,
Grebo,
平井 倭佐子,
TADA,
本田 照美,
松川 まきこ,
島津 泰子,
にし のりこ,
水渡 篤子,
武藤 たつこ

R	E	G	I	S	T	R	I	T
E	P	O	K		E		S	
Ĝ	I		S	I	M	P	L	A
I	D	E	O		P		A	
M	E	M		V		I	N	K
	M		L	O	T		D	O
C	I	V	I	L	U	L		R
E		E	K		R		I	O
D	E		V	I		O	N	

第 72 回関西エスペラント大会

2024 年 6 月 29 日 (土) ~ 30 日 (日)

京都市国際交流会館

第 109 回世界エスペラント大会

2024 年 8 月 3 日 (土) ~ 10 日 (土)

タンザニア、アルーシャ

楽しい作文教室 (148) 成績

10人の方から応募がありました。() 内は留意事項です。

うん、良いね: yosie, ikona, Haveno(④ suprenris)。

良いね: Celejo(③ farita), CA(④ inter), Eiko(④ kompoj), 組曲 (②主語は? ④ apud), Drako(③ transa?), Jasuko(③ okupas), はるちゃん(③目的語は?)。

Mikspoto (当欄は敬称略)

★中嶋美紀さんと小説家の間宮緑さんが Usona Bona Film-Festivalo に出品した対談が YouTube で公開されている。「いいね」をお願いしたいとのこと。 [←木谷 奉子]



★10月29日付東京新聞と中日新聞の「<社説> 週のはじめに考える その『壁』が消える日」がエスペラントに言及。「私たちは、他言語を話す人との意思疎通にずっと四苦八苦ししている(中略) これまでも、その壁に挑んだ人がなかったわけではありません。例えば、L. L. ザメンホフという人物。19世紀後半、世界中が共通して使えることを目指した『エスペラント』という国際語を作りだしました」などと。 [←後藤 斉]

★アニメ「星屑テレパス」が10月9日からU-NEXTで放送されている。宇宙人が使用しているとされる架空の言語がエスペラントらしい。文字体系が独自で、また単語間に空白(分かち書き)がないので「解説」は困難か。 [←後藤 斉]

★10月30日付「朝日新聞」奈良版「まほろばパワー」に直木賞作家、門井慶喜さんの「女性反戦家 普遍の悩み記す碑」が掲載された。奈良市内の般若寺に長谷川テル訪問記念碑が建立された記事を読ん

楽しい作文教室2月号課題 (12月20日締切)

- ①だが建設には土地の確保などで時間が掛かる。
- ②学校が完成するまでの時間稼ぎが必要だ。
- ③小学校はしばらく市と町の共有になった。
- ④新校舎ができるまでは元の学校に通える。

(ヒント) 共有 dividi. sekurigi, dum, por を調べましょう。

前号の続きです。原文の内容を伝えるには言い換えが必要かもしれません。

送付先:

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811 塚本 猛

[電子メール] c_tak@esperanto.ne.jp

(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。

で、学友と話し合ったのは国際共通語エスペラントのことだったのではと思ったと。 [←中西 とし子]

★山川修一著『エスペラント現代用語集』第5版紙出版。JEIで税込4400円。表計算ソフトからそのまま作成したPDFはJEI会員専用サイトで無償ダウンロードできる。 [←山川 修一]

★9月号の訂正:7月16日付『河北新報』の「庄内 出羽人形芝居…襲名へ」の記事は誤報でした。タンザニアの世界大会からの公演依頼はないそうです。

La 4a Vintra Lernejo

2024年1月27日(土)～28日(日)
エスペラント会館(京都)

第31回ワン・ワールド・フェスティバル

日時:2024年2月3日(土)10時～17時、
4日(日)10時～16時半

会場:梅田スカイビル・ステラホール

(大阪市北区大淀中1-1-30 タワーウエスト3階)

- ・JR大阪駅 中央北口徒歩7分、
 - ・阪急大阪梅田駅 茶屋町口徒歩9分、
 - ・Osaka Metro 御堂筋線梅田駅5番出口徒歩9分
- 会場が昨年とは違いますのでご注意ください。関西エスペラント連盟は昨年と同様にブース展示を行います。

KLEG 事務局だより

★関西各地のザメンホフ祭では、エスペラント書籍やCDの販売を行います。

確実に購入したい方は、事前に書籍のタイトルを事務局までご連絡ください。

★また、ザメンホフ祭の会場では、UEAやJEIの会費等も預かりますので、ご利用ください。

★本誌は何月からでも購読開始できますが、12月は多くの方が購読料や個人会費の更新時期にあたっています。宛名シールに有効期限を記載していますので、該当する方は更新をよろしくお願ひします。

KLEG 後援会へのご寄付 (2023年10月、敬称略)

匿名 20,000円(切手として)

森 亨 5,600円

ご支援、ありがとうございます。

Indekso de La Movado 2023

数字は1月号(863号)～12月号(874号)を示す
*印は tute en Esperanto

関西大会

第71回関西エスペラント大会案内(とじ込み)	1	
第71回関西エスペラント大会へのお誘い	塚本猛 4	
第71回関西エスペラント大会案内[改訂版](とじ込み)	5	
第71回関西大会分科会	クイズで知ろう正しい情報「エロシエンコ」	菊島和子 6
第71回関西エスペラント大会開かれる	8	
2024年の関西大会は京都で(再掲)	森川和徳 9	

中国・四国大会

第21回中国・四国エスペラント大会開催	木谷奉子 3
若者も活躍した第22回中四国エスペラント大会	福井政春 11
中四国エスペラント大会2023は10月1日岡山国際交流センターで	福井政春 8

九州大会

第94回九州エスペラント大会をZoomで	武藤たつこ 2
第95回九州エスペラント大会5月20日(土)21日(日)、長崎で	盛脇保昌 5
第95回九州エスペラント大会成功裏に	8

日本大会

第110回日本エスペラント大会(案内)とじ込み	3
第110回日本エスペラント大会へのお誘い	実行委員会 6
第110回日本エスペラント大会(とじ込み)	8
第110回日本エスペラント大会直前情報	10
コンパクトながら充実したプログラム	木元靖浩 12
児童文学からウクライナ情勢まで、多様な話題の大会	相川節子 12
日韓共同開催大会(2024年)予告	木元靖浩 12

世界大会

古都トリノでの世界エスペラント大会	伊藤俊彦 10
-------------------	---------

合宿

第3回 Vintra Lernejo	1
みどりの学校2023 信州高遠で	5
夏のみどりの学校 白馬村で	5
関西エスペラント連盟が久々の「合宿」	5
EPAの国際合宿	奥脇俊臣 6
第4回エスペラント冬期学校(Vintra Lernejo)の案内	11

国内外での活動報告

EPA(エスペラント普及会)創立100周年記念行事を9月に	奥脇俊臣 1
富田林市公民館まつりに参加	藤井由美子 1
高槻エスペラント展	浮田政治 1
吹田でふれあい講演会	大畑賀代子 1
京都の観芸祭に出演	笹沼一弘 1
豊中エスペラント会機関紙600号に	1

広島エスペラント会の近況	1	
2月にワン・ワールド・フェスティバル	2	
関西連盟の Vintra Lernejo を3月に実施	2	
各地のザメンホフ祭	宮崎/近藤方彰 広島/野原エミ 堺/寺本元子 池田/佐野寛・島谷剛 京都/大西真一 福井/北川昭二	2
熊本エスペラント会が100周年記念展	中山久仁子 2	
中国四国連盟の事務局変更	2	
長谷川テル訪問記念の碑建立募金のお願い	2	
*Skize pri nia Esperanto-Movado en 2022 red.	3	
京都で入門講座	森川和徳 3	
奈良エスペラント会学習会で長谷川テル	竹森浩俊 3	
ワン・ワールド・フェスティバル3年ぶりにブース参加	福田誠 4	
「長谷川テル訪問記念の碑」除幕式のお知らせ	中西とし子 4	
加古川でザメンホフ祭	多田龍二 4	
“Sen Familio”を読む経緯について	吹田エスペラント会 5	
姫路のフェスティバルに参加	多田龍二 5	
*Pri muzika albumo “Esperanto”	5	
京都エスペラント会が観芸祭に参加	6	
「長谷川テル訪問記念の碑」除幕式	竹森浩俊 6	
神戸エスペラント会の総会	玉越邦彦 6	
*Kunsido de Verda Monteto en la urbo Wakayama post longa tempo	Egawa Harukuni 6	
ウクライナ戦争、世界の声を集めて	堀泰雄 7	
2022年度 KLEG 活動報告/2023年度活動方針	7	
広島エスペラント会近況	野原エミ 7	
香川エスペラント会、“Meiko”を	7	
土曜エスペラント会	山川修一 7, 9, 10, 12	
KLEG賞 KLEG事務局員の10年間	大西真一 8	
KLEG奨学金 日本エスペラント図書刊行会を担当して	染川隆俊 8	
EPA 創立100周年記念 ザメンホフのひ孫マルゲレータさん講演	8	
吹田エスペラント会総会報告	8	
Pasporta Servoのお客Petroさん	田平正子 9	
宮崎エスペラント会近況	近藤方彰 9	
池田エスペラント会に Ron Channeyさん 島谷剛	9	
『雪国』のエスペラント訳本と手紙展示	宮本義人 9	
第72回関東エスペラント大会感想記	竹森浩俊 9	
宇治城陽エスペラント会運営会議	10	
はりまエスペラント会報告	10	
Margaret Zaleski-Zamenhof 来日取り止め	10	
枚方エスペラント会で、たこやきパーティー	10	
第34回愛知サマーセミナー	10	
西永篤史さん世界大会で表彰	10	
国際色豊かに「エスペラント普及会」100周年記念行事	木元靖浩 11	

ワン・ワールド・フェスティバルの成果	竹森浩俊	11
ハンガリーから友人の息子さん来阪	藤井由美子	11
各地のザメンホフ祭予定	京都、近江、枚方、宇治城陽	
/はりま、神戸/池田、茨木、吹田、高槻、豊中/大阪、堺、		
富田林、奈良、和歌山		11, 12
豊中駅北口にポスター展示	佐野寛	11
エスペラントふれあい講演会	大畑賀代子	11
神戸エスペラント会入門講習会	木元靖浩	11
エスペラント会館で入門講座		11
鳥取でエスペラントに関する講演	後藤斉	11
京都エスペラント会例会にお客様	相川節子	11
奈良西部公民館文化祭	竹森浩俊	12
宮崎エスペラント会例会	近藤方彰	12
ミレイユ・グロジャン上智大学で講演	北川郁子	12
姫路国際交流フェスに参加	塚本猛	12
福本博次さんに小坂賞		12
京都歓芸祭りで展示とステージ	森川和徳	12

学習
楽しい作文教室 137～148 塚本猛 1～12

Kajero Libervola

Mi vidas stelojn en mallumo / Mi faras miraklan saŭcon majonezon Tadaŝi Jamada 1, 3
 Memoro pri mallonga restado en Kastelo Grésillon / Pri nia urbo Dazaihu, nur iomete / Iom pri Niŝitecu- Oomuta Linio / Mutoo Tacuko 2,5,9
 ChatGPT ankaŭ en Esperanto Kelonio 4
 Rakonto pri Veneno kaj Verko / Ĉina esperantisto vizitis Japanion (1), (2) / Rakonto pri Veneno kaj Verko (2) / Kial homoj militas?
 Takemori Hirotoŝi 6, 7, 8, 10, 12

Pri la duonpatrino de Neĝulino Aikawa Setuko 11

エッセイ
 *Rakontetoj el Hamburgo
 Krispa brasiko/Denglich/49€-bileto en tuta Germanio/Fino de Atomenergio en Germanio
 Mariko Aoshima 2, 5, 8, 11

連載：高齢者の…
 1 高齢者の講習は？ / 2 高齢者の役員は？ / 3 高齢者の輪読の壁は？ / 4 高齢者とエスペラント会話
 佐野寛 6～9

***vidis eksciis sentis**
 Velŝipo kaj la Haveno Kobe Kimoto Yasuhiro 1
 “Ŝildforma Bronza Spegulo” elfosita el Tomio-Marujama-Tumulo en Nara Takemori Hirotoŝi 4
 Kvin-etaĝa pagodo de Templo Koofukuji
 Takemori Hirotoŝi 9
 Statuo de Murasaki-Ŝikibu 10
 Nova fama loko estas naskita en la urbo Nara
 Takemori Hirotoŝi 12

Salono

La Movado 874

2018年9月号の記事の訂正 相川節子 5
 大規模言語モデル ChatGPTとエスペラント Kelonio 6

書評・図書紹介・出版情報
 Secesio 伊藤俊彦 3
 *Japanaj eldonajoj en 2022 Somekawa Takatosi 4
 源氏物語「橋姫」Amazonで 9
 源氏物語二 10

文芸
 *Nuda Leporo de Inaba red. 1
 小倉百人一首 (対訳)
 Simatani Takesi 1～2, 4～9, 11～12
 源氏物語 橋姫 (対訳) 11～16 belmonto 1～6
 源氏物語 夢浮橋 (対訳) 1～6 belmonto 7～12
 夢十夜 (対訳) 1～12 Oki Keimei 1～12
 日本昔話 (対訳) 若返りの清水 / 牛若丸

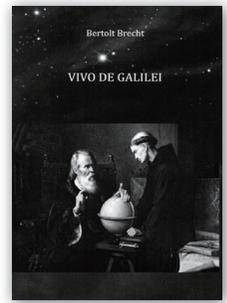
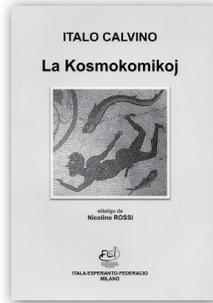
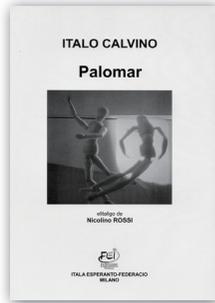
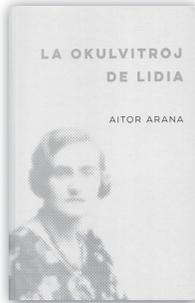
Simatani Takesi 2, 9
 花のいのちはみじかくて (対訳) Simatani Takesi 10

歌
 Leporo danca (うさぎのダンス) / Kie vi naskiĝis (あんたがたどこさ) / Kolombo (はと) / Diru, Generalo Princo(宮さん宮さん)/Tram-ludo (電車ごっこ) / Forĝisto en Vilaĝo (村の鍛冶屋) / Leporo (うさぎ) / Dekanŝo (丹波篠山デカンショ節) / Uŝiŭaka (牛若丸) / Unua Stelo (一番星みつけた) Simatani Takesi 1～2, 4～10, 12

訃報・追悼
 西尾務さん 1
 永遠の西尾務さん / 桜井大二郎 学生時代から仲間の先頭に / 三輪博昭 「ダイナミックレイク琵琶湖から世界へ」の翻訳出版 / 大西真一 新しいことに挑戦し続けた西尾務さんを悼む / 中道民広 3
 西尾さんが残されたもの / 野田淳子 いつでも皆の先頭に / 岩田好兼 4
 木村英二さん、中道光子さん 8
 「婦唱夫随」の綿貫健一郎さん 渡辺克義 10
 木村英二さんの思い出 木元靖浩 10
 中道光子さんの思い出 木元靖浩 10

Vortkruca enigmo
 Takemori Hirotoŝi 1, 3, 5, 7, 9, 11
 Tahira Minoru 2, 4, 6
 Anonimulo 8, 10, 12

Kurantaj Vortoj 1～4, 8～11
Mikspoto 1～12
年間索引 12
KLEG 事務局だより・後援会 1～12
 KLEG 後援会にご協力を 2
図書広告・編集ノート 1～12



★ 新刊・新着 ★

La okulvitroj de Lidia 3800 円
Aitor Arana 著。強制収容所に消えたルドヴィコの娘リディア、そしてヒトラー—対照的な同時代人の生涯を描く。A5 判、201p.

Palomar 2400 円

La kosmokitikoj 2600 円
イタリアの作家カルヴィーノの短編集『パロマー』『レ・コスミコミケ』(Rossi 訳)。寓意に満ちた物語世界が楽しめる。B5 判、94p. 107p.

La bela somero 2400 円
美しい盛りは終わった — 大人の世界に歩みだそうとする女性の孤独を描いて痛切なパヴェーゼの代表作『美しい夏』(Minnaja 訳)。B5 判、83p.

Vivo de Galilei 2700 円
ブレヒトの戯曲「ガリレイの生涯」(訳 den Haan kaj Jansen)。地動説をめぐる歴史的闘争。問われるのは科学と権力、そして良心。A5 判、147p.

Lando kiu vekigis 3500 円
Rakontoj el Ukrainio — 原発事故、独立、政変、そしてロシアの侵攻。激動のウクライナを生きる人びとを Kalle Kniivilä が描く。A5 判、169p.

★ ザメンホフに親しむ ★

Fundamento de Esperanto 2700 円
「エスペラントの基礎」5か国語版+解題、解説。

Ekzercoj de Zamenhof 300 円
「エスペラント基本文例集」。ザメンホフの“Ekzercoj”と“La Feino”を初心者のために再編集。

Esenco kaj estonteco de la ideo de lingvo internacia 600 円

ザメンホフによるエスペラントの原点を示す論文。

La Zamenhof-strato [新版] 2800 円
ザメンホフの孫が語る半生とザメンホフの生涯。

Zamenhof en Varsovio 1400 円
Dobrzynski 著。ワルシャワに生きたザメンホフとその家族の足跡をたどる。

★ 再入荷 (価格を改定) ★

Atenco 1600 円

La fera birdo 1500 円

Kantoj por ĝojo 800 円

La krubalo 1300 円

Kuru, knabo, kuru 2500 円

Ne serĉu la murdiston 1400 円

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート



★ザメンホフ祭では一年かけて読むつもりで、分厚い本を買きましょう。円安ユーロ高で輸入図書も値上がりしていますが、日本語の本は一晩で読めるのに対してエスペラントなら長く楽しめるので少々高くても…… (相川 節子)

編集部宛連絡・投稿は <lamovado@gmail.com> へ

発行所：ラ・モバード社 編集：相川 節子 発行人：染川 隆俊 定価280 円 送料63 円 1年3800 円 送料共
 本 局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曽根東町1-11-46-204
 電話 (06) 6841-1928 ファクス専用 (06) 6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.org
 振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://www.kleg.org
 九州支局：九州エスペラント連盟内 859-0407 長崎県諫早市多良見町シーサイド 2-190 盛脇保昌方 電話 (0957)43-4352
 中国・四国支局：中国・四国エスペラント連盟内 763-0063 香川県丸亀市新浜町 2-4-18 小阪清行方 電話 (0877) 22-4771